

あいのわ

足立あかしあ園 綾瀬あかしあ園 舎人あかしあ園 神明障がい福祉施設 足立区大谷田障がい福祉施設 竹の塚あかしあの社 あいのわ支援センター あいのわ相談センター

■発行者 社会福祉法人あいのわ福祉会
理事長 鈴島 妙子

■連絡先 〒121-0012 東京都足立区青井4丁目30番5号
TEL:03-3849-1188 FAX:03-3849-7001
URL <http://www.ainowa.or.jp/>

■印刷・作成
足立区大谷田就労支援センター



平成27年4月6日
舎人あかしあ園開所式

平成26年度 第4回評議員会・理事会報告

開催日 平成27年3月17日（火）

場所 足立あかしあ園会議室

議案

第1号議案 平成27年度事業計画（案）・予算（案）について

第2号議案 平成26年度決算前処理（2）について

第3号議案 平成26年度第2次補正予算（案）について

第4号議案 定款変更について

第5号議案 諸規程の制定・改正について

平成26年度、最後の評議員会・理事会が開催され新年度に向けての事業計画（案）、予算（案）をはじめ他の議案についてご審議いただき全ての議案が承認されました。

（案）、予算（案）をはじめ他の議案についてご審議いただき全ての議案が承認されました。

平成26年度を振り返りますと、4月青井ハウスの開所（5月より通所職員によるバックアップ態勢の開始）、5月、庁舎ホールに於いて第1回地区割り制度説明会を実施、その後生活介護事業部を中心に年間を通して対応を検討しました。

又、平成24年4月に開所しました神明福祉園谷中分室は、各施設の満杯を解消する役割を終え3月末を持ちまして閉所となりました。

そして、3月20日には舎人あかしあ園の竣工落成式がありました。足立区長様はじめ100名あまりの関係の皆様のご出席を賜りまして待望の西部地域の通所施設の開設をお祝いして戴きました。

平成27年度は、地区割り実施年度にあたり、各施設の利用者さん一人ひとりがお持ちの光を更に大切にし、職員はそれを発見し生活力を高められるように支援してまいります。そして、あいのわ福祉会中期計画に基づき次の事業経営方針を推進してまいります。

I、新入所並びに施設間移動された利用者さんやご家族の安心・安定を図り、新しい仲間づくりを進めます。

II、舎人あかしあ園の安定運営と地域の皆様への理解推進を図ります。
III、職員育成（人事考課・新人研修・医ケア研修等）の推進、新入職員に対するマンツーマンサポート体制を確立します。

IV、グループホーム・地域移行支援の推進、青井ハウスに次ぐ新たな生活拠点の検討を始めます。

V、新会計制度の安定運用と更なる効率化及び管理体制の強化を図ります。
VI、地域貢献事業の計画、少子高齢化や福祉ニーズの多様化・複雑化に対応し、生活困窮者自立支援法の施行を踏まえ社会福祉法人としての役割を考え実現してまいります。

今年度も、役員・職員一同緊張感を持ち運営してまいります、これからもどうぞご理解とご支援のほど宜しくお願ひ申しあげます。



舍人あかしあ園落成式典・祝賀会

これまで、あいのわ福祉会の通所事業は、ほとんどが区内の東側に集中していました。西部地域にお住まいの方々にはご不便をおかけすることも多い中で、同地域への施設開設は念願であったとも言えます。そうした期待を受け、舍人あかしあ園がいよいよ事業開始となりました。

3月2日の建物引渡し後、3月20日に舍人あかしあ園の落成式典・祝賀会が開催されました。多くのご来賓の皆様と法人関係者合わせて約100名が参加しました。式典は、テープカットで始まりました。その後の開式の辞、理事長の挨拶と続き、議員の皆様や、さらに地域の代表の方からご祝辞をいただきました。また、式典後半での設計・建築関係に携わった方々への感謝状贈呈では、計画段階からの思いのこもつたご挨拶をいたしました。

その後の祝賀会は、和やかな雰囲気の中での会食となりました。ここでも多くの皆様からご祝辞をいただき、また、素晴らしい絵画を寄贈していただきいた宮本裕子先生へ感謝状を贈呈させていただきました。作品は施設エントランスに展示してありますので、当施設にお越しの際にはぜひともご覧ください。

今、私の手元にあるいちばん古い「新施設」の図面は、平成24年6月7日付になっています。それから約3年。本当に多くの方が関わって新しいそして素晴らしい建物が出来ました。これから、期待に見合う中身を作り上げるのは舍人に配属された我々職員の役目です。施設名にある「人」という文字、人と人とのつながりを大切に、一つひとつ丁寧にこの先を作り上げていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

（落合）

4月1日、総勢152人の職員が一堂に会し、平成27年度あいのわ福祉会全体会が執り行われました。

理事長による所信表明、理事からの年間方針、各施設から事業計画の発表等を行いました。20年勤続表彰では、8名の職員が表彰され、長きに渡り本法人を支え、様々な事業に貢献してこられた職員の方々に敬意を表すとともに、法人の歴史の重みを再認識させられる機会となりました。多くの関係者の熱い情熱と深い思い、そして積み重ねてきた実績を確認しながら、今後も職員が一丸となり、地域に必要とされる役割を果たしていきたいと考えております。

今年度の事業展開において核となるのが、舍人あかしあ園の開設です。あいのわ福祉会として、西部地区へ初めての施設設置となり、これに伴い、足立区によるバスの地域割りも実施されました。この、「バスの地区割り」に関しては、これまで通り慣れた施設から、自宅近くの施設へ変更していくというものでした。利用者のニーズに沿い利用者主体で利用施設を選択し契約を行う総合支援法の主旨から考へると、利用者の皆様、ご家族、そして支援を提供する我々にも戸惑いが生じていた訳ですが、一方で、震災時の緊急対応や通所バスの乗車時間の短縮、通所施設での滞在時間の延長等、更なるサービスの向上を図るための施策として検討され、実施に至りました。複雑な思いを抱えながらのスタートであったことは隠せませんが、ここは『新たな仲間達との再スタート』と前向きにとらえ、ご利用いただく方にご満足いただけるよう、柔軟な発想を持って、この一年を乗り切つていきたいと考えています。

22年目を迎えた本法人は、社会福祉法人としての在り方や行政・関係機関との連携も含め、見直しや再構築を図りながら、より時代に合った公益法人として前進するための舵取りを意識していく所存です。今後とも関係者の皆様方のお力添えを、何卒宜しくお願ひ申上げます。

(小山)



新施設長・副施設長挨拶

新任施設長



照井 智幸
あいのわ支援センター

平成27年4月より、あいのわ支援センターの施設長を拝命いたしました照井智幸と申します。宜しくお願ひ致します。あいのわ支援センターは、平成22年12月に谷中ハウスが開設してから5年目を迎えました。その間地域や各関係機関の多くの方々にご支援・お力添えをいただきまして心より感謝しております。昨年度は、念願の三か所目となる青井ハウスを開設することが出来ました。各利用者の方々の生活は、今では共同生活という生活に慣れ、自分らしく楽しい生活をしているのが窺えます。施設管理していく過程においては、度重なる法改正による施設運営の難しさや職員確保の問題・業務上の多々ある課題など、グループホームを取り巻く情勢は非常に厳しいものになっていますが、何といってもこの地域でグループホームを必要としている利用者の方が数多くいる事を改めて実感しています。あいのわ支援センターは、地域生活支援の拠点という責任において利用者の皆様の安心した生活、またホッとした生活の場をこれからも職員と共に創り上げていきます。引き続き一層のご支援とご指導を賜りますようお願ひ申し上げます。

新任副施設長



森 哲也
竹の塚あかしあの杜

このたび、竹の塚あかしあの杜の副施設長を拝命いたしました森 哲也です。どうぞよろしくお願ひ致します。

竹の塚あかしあの杜は、昔から顔見知りの利用者の方々が多く、なんだかとても不思議な気持ちです。入所においてはより生活の基盤を構築していくこと、通所においては、医療ケアの方々が多くいらっしゃることでより安全に、その人らしさを大切に、竹の塚あかしあの杜ならではの大きな組織を活かして、業種を超えての支援ができると思います。大きな竹の塚あかしあの杜だからこそできることがきっとあるはずだと思います。

…とは言ってもまだ覚える事が多く、課題も何も整理できておらず…まずは名前と顔を一致させることからが正直なところです。一人ひとり、一つひとつと丁寧に向かっていければと思います。まだまだ未熟者ですが、今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

新規採用職員紹介



法人本部
松下 美郷



足立あかしあ園
本田 美紀



足立あかしあ園
永山 彩夢



足立あかしあ園
佐村 七菜



足立あかしあ園
佐々木 章子



綾瀬あかしあ園
村上 麻佳



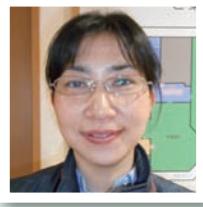
綾瀬あかしあ園
守屋 香菜子



舍人あかしあ園
渋谷 勝巳



舍人あかしあ園
森下 聰美



舍人あかしあ園
杉本 朋美



竹の塚あかしあの杜
阿部 淳



竹の塚あかしあの杜
山室 麻美



竹の塚あかしあの杜
野田 千春



竹の塚あかしあの杜
川邊 一貴



竹の塚あかしあの杜
清水 誠也



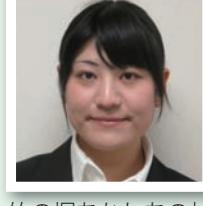
竹の塚あかしあの杜
船山 正和



竹の塚あかしあの杜
成田 茗子



竹の塚あかしあの杜
池田 朋世



竹の塚あかしあの杜
村田 理恵



竹の塚あかしあの杜
山本 恵理子



竹の塚あかしあの杜
町山 由佳



竹の塚あかしあの杜
藤井 典子



あいのわ支援センター
沢田 愛実



神明障がい福祉施設
山崎 舞



神明障がい福祉施設
菊池 優理恵



神明障がい福祉施設
前林 利英子



大谷田障がい福祉施設
横山 美樹

あなたも、私も、誰もが、その人らしく暮らすことを願つて 市川善男

竹ノ塚の駅を降りて『竹の塚あかしあの杜』に向かう道すがら、あちらこちらで咲き誇る桜の花や、木々の芽や若葉の柔らかな緑に、春の穏やかな空気に包まれる心地よさを覚えます。

昨年4月から週1回、利用者支援のお手伝いで『あかしあの杜』に通わせていただきました。初めて通った時と同じ桜の木が、今年もまた新しい花をつけています。花が咲いては散り、葉が開いてはまた散って、それでも桜は桜であり続けます。私もまた、『あかしあの杜』の皆さんとの出会いを通して様々な学びを経験できたことで、1年前の自分とは何かしら違うものの、やはり私であり続けています。自然の営みも人の営みも、同じような日常を積み重ねているようしていく、その実確かに変化あるいは成長していくことに気付かされます。

人間誰しもが「幸福を求めて自分らしく暮らしたい」と願つて日々の営みを送つているはずなのですが、これがなかなか「ままならない」のが現実です。とりわけ障がい当事者の方々にとっては「普通に暮らす」ことが、「おおじと」と映つてしまいかねない状況に置かれていると言つても過言ではないでしょう。それに対して、「普通の暮らし」が決して「おおじと」ではなく「あたりまえのこと」として成り立つよう取り組むのが、福祉の仕事、対人支援の仕事なのだと思います。

日々の挨拶・会話、言葉かけや様子見、身の回りのお手伝いに始まり、時には制度要求に至るまで、大変幅広く多様な支援のあり方が求められています。この仕事はつまるところ、利用者の方々の人生が「ままならない」場面にあたつて、何が妨げになつているのかの正体をつきとめること、問題解決の道を模索すること、そして実行すること、それが正しかつたかどうかを確かめること、これの繰り返し・積み重ねではないでしょうか。

「お手伝い」という立場で『あかしあの杜』の皆さんに接していた私ですが、利用者支援に取り組む職員の皆さんの大勢な姿勢を拝見し、私自身の40年足らずの障がい当事者の方々との関わりについて振り返り学ぶことの方が多い、改めて学びには終わりがないこと、当事者を見つめ、当事者に教えていたしたこと、これこそが支援の原点であると再認識させられました。

足立の地域に根ざした『あいのわ福祉会』の事業展開が、相談支援・通所・就労・施設入所・短期入所という事業ごとの役割を横断した素晴らしい「あ・い・の・わ」の理念のもと、誰にとってもたつた一度しかない人生を、かけがいのない存在である私、あなたとして自分らしく生きていふことができるることを願い、利用者、ご家族、関係者の方々と共にいつそう発展されていかれることと信じてやみません。1年間本当にありがとうございました。

神明福祉園谷中分室閉所式

平成27年3月27日、神明福祉園谷中分室、閉所式を終えました。つい数日前まで冬のコートが必要なほど寒さでしたが、春の穏やかな日差しにより気温も上昇し、桜の蕾もほころびはじめてきた中で、無事最終日を迎えることができました。

26年度も、急な職員の入れ替わりなど、利用者、ご家族の方にはご迷惑をおかけすることが多々ありました。ただ私も谷中分室で1年間過ごさせていただき、多くの楽しみや喜びを、利用者の方々や他の職員と共に共有することができるように思います。

閉所式ではみんなである歌をうたいました。利用者の方が書いた詩に曲とアレンジを加えたもので、毎朝のニーティング後にも歌つていました。その中の歌詞にもあるのですが、人には様々な出会いがあり、また別れもあります。

それでもやはり明日に希望を持って、歩んでいく歩んでいたい。「希望」という、タイトルの歌でした。



紙雛を 添えたる着荷 海の幸 秋山 啓司

▼この一句

「満開の花のうしろを用昇る」保井 甫

桜は古来、日本人に愛され賞されてきた。

国花ともされており、またらん漫と咲き誇った花の散りぎわのはかなさが、愛惜されてきたものである。

満開の桜の木から満月が静かに昇る光景は幻想的でもあり、幽玄の世界に入つていくような思いのする一句である(秋山)

障害を持つない手と手で 受け止める 高橋 由美子
人はみな かがやく何かを 秘めている 高橋 由美子

後援会だより
(平成27年1月～3月) 敬称略、順不同

特別会員 (1口3千円～5千円)

遠間道也、宮本裕子、濱野幸彦、細川武人

一般会員 (1口1万円)

西村文雄、高島節郎

寄付者

東京綾瀬ライオンズクラブ

足立区肢体不自由児者父母の会、渡辺和彦

田林恵子他有志一同、匿名2件

綾瀬あかしあ園・保護者会

(開設時より積み立てたものをグループホーム建設土地購入資金として寄付いただきました)

●後援会加入のおねがい●

当法人の事業及び運営施設の発展を願い、財政的な援助をしていくことを主として後援会活動を行つております。一人でも多くの方々にご賛同いただき、後援会への加入ご支援をお願い致します。申し込み・お問合せは後援会事務局電話(3849)1188まで

足立区社会福祉協議会の出前講座

平成27年度開催予定

- ①「介護保険と認知症」平成27年5月21日（木）
- ②「ワンポイント介護術」平成27年6月25日（木）
- ③「ボランティア入門」平成27年7月23日（木）

時間…いずれも14：00～15：30

場所…地域交流広場「あいのわ」
足立区西保木間2-16-4

参加ご希望の方は、左記へお電話でお申し込みください。

お申込み先…竹の塚あかしあの杜

竹の塚7-19-11

TEL 5654-17731

平成27年度後援会総会及び講演会のご案内

日時	平成27年6月16日（火）
会場	足立あかしあ園 3階会議室
内容	第1部 後援会総会 第2部 感謝状贈呈 第3部 講演会 演題「うちのかあさん、アイデアかあさん」 講師 斎藤ゼンキゅう氏

■編集後記

期待よりも不安のほうが大きかつた4月が過ぎ、もうすぐ5月になろうとしています。通所施設が変わった皆さんは新しい環境に少しすつ慣れてくれたでしょうか。舍人あかしあ園が開所して、今年度はこれまで育んできた人々との繋がりに加えて、更に新しい輪を大きく広げる1年になりそうです。

息子は綾瀬あかしあ園にお世話になつて15年間を過ぎました。仲間との楽しい思い出は忘れるのできない宝物のようです。親たちも何かと知恵を出し合い、人の子も自分自身も大切に思い、絆が深まつていきました。それぞれに新しい出会いを通して、これまで培ってきた力をどこにいつても發揮できますように。さあ、前進です。

（斑目）

